

●春

○58

桜漫遊 (H22/4/9 作)

(仄起式 押韻は下平声「尤」である。)  
先日家内と淡墨桜と下呂温泉のバス旅行に行きました。桜も咲き始め、苗代桜も幻想的でした。通商白帝城の国宝犬山城は満開でした。大いに満足しました。リタイアした夫婦が圧倒的に多く、健全な証左でしょう。

淡墨漸開吟客周  
帝城繚乱舞翻蹂  
数多匹偶同行好  
満喫飛驒桜漫遊

○41

早春 (H19/3/2 作)

(仄起式 押韻は、平声十「灰」である。)  
近年の地球温暖化の影響でしょうか？オゾン層が厚くなっているのでしょうか。いつもより早く春が訪れつつあり、皇居外苑をジョギングする人も多くなり、日比谷公園や憲政公園皇居の桜も咲き始めました。

風暖水温桜続開  
浴陽老若勇周回  
年々層厚寒威減  
啓蟄鶯鳴春早来

○22

立春賦 (H16/3/14 作)

(平起式 押韻は、下平声八「康」である。)  
十勝にも遅い春が訪れようとしている。待ち焦がれていますが、来るべき春に思いを託して十勝最後の詞を作りました。

東風蟲蠢緑初成  
氷凍忽融川水盈  
脱套行人晴暖日  
春郊十里草斯萌

風和春來 (H15/3/21 作)

(平起式 韻は、平声一「東」である。)

春の来るを待ち焦がれつつ、雪融けが進み、日高山脈や田畑に地面も現れ始めようとしている情景をイメージして作詩しました。

氣和氷雪取將融  
山色斑顯土叢  
連柳薔開芳草岸  
忽然四海已春風